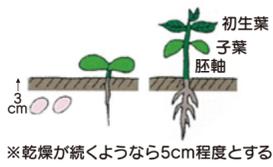


大豆栽培こよみ

時月	6			7			8			9			10			11																																																											
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下																																																									
主な作業	適地の選定			土づくり			播種前除草			施肥			耕起・整地			耕起・播種			除草剤散布			中耕・培土			追肥			害虫防除			害虫防除			病害虫防除			害虫防除			青立株採取			成熟期			乾調																													
作業内容	水系別に集団化を図る。			種子消毒(ハト害・紫斑病) 種子消毒基準参照			排水溝設置 周囲にやや深い排水溝を設け落水口つなぐ。			地力増強 麦ワラすき込み。アツミン、土力の素 pHの矯正 目標pH6.0~6.5 炭酸苦土石灰、ミネラルG			雑草防除基準参照			播種時期と栽植密度参照			e-green4・4・20の散布を行う。			アサガオ・ホオズキを手作業で取り除く			ガードバイトAを3kg/10a株元散布を行う。			ネキリムシ 生育初期に大豆地際部の土壌表面に			8月10日頃までに必ず1回は実施する(倒伏防止と雑草対策)。			本葉2枚から4枚頃までに行う。			生育不良の場合は開花期までにNK化成2号を10kg/10a施用する。			白変葉が目立つてきたら薬剤による一斉防除を行う。			早めに手取りで除去する。			ハスモンヨトウのふ化幼虫が群生している白変葉を			紫斑病 カメムシ ハスモンヨトウ			の薬剤防除(三種混合)			ハスモンヨトウの多発年は、液剤による徹底防除を行う。			カメムシの薬剤防除(補正)			刈取適期は成熟期の7日後から(子実水分16%以下) 乾燥した時期 成熟期は大部分が落葉し莢を振ると、音をたてる程度に			青立ち大豆や雑草は刈取前に抜き取る。			アサガオ			ホオズキ			ホソアオゲイトウ		

※出展:福岡県病害虫防除所

播種・出芽期



中耕・培土



品種特性表 (7月10日播)

品種名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
ちくしB5号	8月21日	11月1日	やや強	366 kg	32.4 g

土づくり

施用	資材・方法	施用量(kg/10a)	備考
有機物の施用	麦ワラすき込み	全量	播種作業に支障がないようワラは短く切る
	アツミン	40	保肥力を高める腐植酸が主成分
土壌改良材の施用	炭酸苦土石灰	100~200	酸性障害対策、大豆に必要なカルシウムを含む
	消石灰	140~200	酸性障害対策、カルシウムのほかケイ酸も含む
	ミネラルG	45	保肥力を高める腐植酸のほかケイ酸加里を含む
	土力の素	40	ケイ酸、カリの補給

<有機物の施用>収量向上には地力の増強が必要です。
 <土壌改良材の施用>大豆は酸性に弱い作物です。大豆栽培に適した土壌条件: pH6.0~6.5

種子消毒基準

薬剤名	処理方法	処理量	備考
キヒゲンR-2フロアブル	塗沫	種子10kgに200ml	ハト害、紫斑病
クルーザーMAXX	塗沫	種子10kgに80ml	ハト害、紫斑病、萎疫病、白絹病、黒根腐病

施肥基準

大豆作付条件	肥料名	基肥	成分量			遅播はちくこのめくみ444を使用する
			窒素	リン酸	カリ	
一般	e-green4・4・20	30~40	1.2~1.6	1.2~1.6	6.0~8.0	
遅播等	ちくこのめくみ444	15	2.1	2.1	2.1	

※大豆種子は肥料焼けし易いので、播種と施肥位置が重ならないように注意します。
 ※生育不良の場合は開花期までにNK化成2号(16-0-16)を10kg/10a施用します。

播種時期と栽植密度

品種名	ちくしB5号 (1株当り2粒)		
播種期	7月1日~7月10日(適期播)	7月11日~7月20日(適期播)	7月21日~
条間(cm)	70~65		
株間(cm)	30~25	25~20	15~10
10a当り播種量(kg)	3~3.5	3.5~5	6~9

※早期播種する場合は過繁茂になりやすいため株間を調整します。
 ※適期の範囲内でなるべく早く播種します。
 ※異品種混入防止の為、は場には一品種の作付けとします。

令和8年大豆栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬												
ちくしB5号	土づくり			種子消毒			中耕・培土			病害虫防除			収穫					
	/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日			/ ~ 日					
a	基肥			中耕・培土														
	/ ~ 日			/ ~ 日														
	雑草防除			病害虫防除														
	/ ~ 日			/ ~ 日														
	播種																	
	/ ~ 日																	

雑草防除基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	希釈水量	留意点	
耕起前	ラウンドアップマックスロード	200~500ml	50~100ℓ	播種前雑草が多い場合	
	バスタ液剤	300~500ml	100~150ℓ	一年生雑草(イネ科・広葉)対策	
播種後~出芽前まで	ラクサー乳剤	400~800ml	100ℓ	土塊はできるだけ砕き、覆土は2~3cmとする。	
	フルミオWDG	5~10g	100ℓ	ホオズキ、ケイトウ対策 ラクサー乳剤と混用	
	ラクサー粒剤	4~8kg	-	覆土は2~3cmとし、よく整地して鎮圧する。 二重散布にならないように均一に散布する。	
生育期	全面散布	ポルトフロアブル	200~300ml	100ℓ	イネ科雑草3~10葉期、但し収穫30日前までイネ科雑草対策(スズメノカタビラを除く)
		パワーガイザー液剤	200~300ml	100ℓ	大豆出芽直前~3葉期まで 広葉雑草(アサガオ類)対策
	畝間処理	大豆バサグラン液剤	100~150ml	100ℓ	大豆2葉期~開花期、但し収穫45日前まで 広葉雑草対策
		ザクザ液剤 又は バスタ液剤	300~500ml	100~150ℓ	収穫28日前まで 大豆にかからないように散布する。

※周辺の作物に飛散しないように注意 ※中耕、培土による耕種防除も併せて行います。
 ※フルミオWDGは、微量でも他作物に影響を与える可能性があるため
 散布後は専用の洗浄剤を使用し、タンクやホース・ノズルを十分に洗浄する。

病害虫防除基準

液剤体系	時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	10a当り使用量	使用回数	備考
	液剤体系	8月中下旬	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤 又は	2,000倍	100ℓ	2回以内
アクセルフロアブル				1,000~2,000倍	3回以内		
9月中旬		ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	2,000~3,000倍		100ℓ	2回以内
			カメムシ類	スタークル液剤10	1,000倍		
10月上旬	カメムシ類	トップジンM水和剤	1,000倍	100ℓ	2回以内	補正	
		キラップフロアブル	2,000倍				100ℓ

無人航空機体系	時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	10a当り使用量	使用回数	備考
	無人航空機体系	8月中下旬	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤 又は	8~16倍	0.8ℓ	2回以内
アクセルフロアブル				8倍	3回以内		
9月中旬		ハスモンヨトウ	グレーシア乳剤	16倍		0.8ℓ	2回以内
			カメムシ類	スタークル液剤10	8倍		
10月上旬	カメムシ類	アミスター-20フロアブル	16倍	0.8ℓ	2回以内	補正	
		キラップフロアブル	16倍				0.8ℓ

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底します

- ①大豆を栽培するほ場の周辺に作付けされる農作物の状況を確認し、防除日程等の連絡を徹底します。
- ②ブームスプレーヤー(乗用管理機)や動力噴霧機で防除を行う場合は、ドリフト低減ノズルを使用するなどして、農薬の飛散を未然に防ぎます。

*安定多収は土づくりと適期防除から *農薬購入の際は、印鑑が必要です。 *一工程播種で適期播種を目指しましょう。
 *農薬は保管庫等でしっかり管理しましょう! *購入・使用のつど、ラベルを確認する! *農薬の飛散防止に気をつける!
 *散布器具はきちんと洗浄する! *農薬の使用状況を記録する!